

宮城県気仙沼市「からくわ一本釣り活イカ組合」に支援金を助成

第2ステージ



宮城県気仙沼市「からくわ一本釣り活イカ組合」が取り組む「唐桑おすそわけプロジェクト ～若手漁師の挑戦～」の応援のため、日本財団の協力のもと、支援金を助成しました。

2016年1月28日

水産業

キリンビールマーケティング株式会社（社長 布施孝之）は、宮城県気仙沼市「からくわ一本釣り活イカ組合」（組合長 小野寺庄一）が取り組む「唐桑おすそわけプロジェクト ～若手漁師の挑戦～」への支援金として、総額 1,500 万円を公益財団法人 日本財団（会長 笹川陽平）の協力のもと 1 月 28 日（木）に助成しました。

気仙沼市唐桑町の水産業は東日本大震災により壊滅的な被害を受け、高齢化による漁業従事者の減少は一層加速しました。そのような中、5 人の若い漁師が中心となり、高付加価値商品の開発に向けた原料生産基盤の整備や新たな販路の開拓など、唐桑の地域ブランド強化の取り組みにチャレンジしています。「からくわ一本釣り活イカ組合」では、手釣りで一本一本丁寧に釣り上げたイカを船の生け簀で生かし、水揚げ後に臨海ストック施設に集約・蓄養し、宮城県漁協唐桑支所との協働で安定して供給できる体制を整備します。EC サイトやギフトでの販売、中央卸売市場などへの販売も同漁協と連携して行っていきます。また、水産加工販売会社と連携し、凍結処理により鮮度を封印する処理を行うことで、いつでも透き通った新鮮なイカ刺しを、安定して供給できる生産基盤を整備し、オリジナルブランドで首都圏に向けての高付加価値商品としての展開に挑戦します。

今回の助成は、「からくわ一本釣り活イカ組合」が、漁協、水産加工販売会社、民宿組合、観光協会などと協働で行う「唐桑おすそわけプロジェクト ～若手漁師の挑戦～」に対するもので、活イカ蓄養施設の設備導入、ブランド開発、商品開発、販路拡大などに活用されます。



復興応援
キリン
絆プロジェクト

笑顔で結ぶ。人を、日本を。